

平成22年度事務事業実績及び前期4年間取組評価表

事務事業名	特定環境保全公共下水道事業(単独)	会計	下水道	事業No.	303	施策順No.	45-013
		事業種別	政策・その他	予算科目	2-1-3-20-1		
政策	4 暮らしと生命を守る安全安心で快適なまちづくり			課等名	下水道課		
施策	45 居住基盤の向上		事業期間	開始	14	終了	23

1 事業の目的

事業の目的は「対象」を「意図」した状態にすることです	対象	特定環境保全公共下水道処理区域内(山本・竜丘・和田)の市民及び事業所。						A十分達成した Bどちらかといえば達成した Cどちらかといえばできていない Dほとんど達成できていない
	誰、何に	具体的な数値で表すと(対象指標)	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	
		計画処理人口	10800	10800	10800	10800	10800	
		特環処理区内の居住人口	9957	9365	9338	9324	9324	
	意図	下水道普及率を向上させる						
対象をどう変えるか	事業の成果を具体的な数値で表すと(成果指標)	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度目標	22年度実績	23年度目標	目標達成度
	特環処理区域内下水道普及人口(人)	7738	8323	9312	9324	9300	9324	B
	特環処理区域内の下水道普及率 % (普及人口/処理区内居住人口)	77.7	88.9	99.7	100	99.7	100	
22年度の目標達成度に対する振り返り【政策的事業のみ評価】	道路管理者との協議に不測の日数を要し、施工残が生じた。							

2 手段(具体的な取り組み内容)

事業の制度(仕組み)説明	特定環境保全公共下水道処理区内(山本、竜丘、和田)の下水道未普及地区に新たに下水道管を布設し、各戸への公共樹設置工事を行う。(工事に伴う補償費、測量試験費、原材料費、事務費を含む) ・計画処理人口 10,800人 ・計画区域面積 367ha ・計画管渠延長 約92km		
	事業内容	名称	活動量・単位
22年度事業内容	1 単独事業 東平国道工区	1 施工予定線路延長	1 L=84.5m
23年度実施計画	1 単独事業 久米川横工区他1工区	1 施工予定線路延長	1 L=240.0m

3 事業コスト

事業費	特定財源	(千円)	22年度予算額	22年度決算額	23年度予算額	特定財源内訳、補足事項 公共下水道事業(国補1/2) 下水道事業債(補助残90%、非補助95%) 受益者負担金 特環処理区(山本・竜丘・和田)を合併
	国庫支出金				0	
	県支出金				0	
	起債		23,700	23,400	37,500	
	その他		21,700	17,201	2,200	
	一般財源		0		0	
	計 (A)		45,400	40,601	39,700	
	正規職員所要時間			1,000		
	臨時職員等所要時間					
	人件費計 (B)			3,576		
	トータルコスト A+B			44,177		

4 事業に対する市民や議会の意見

・市民からは早期に管渠布設が完了するよう要望がある。

5 行財政改革の取組内容【経常的事業のみ評価】

行財政改革の取組区分	【記載不要】	具体的な取組事項	【政策的事業のため記載不要】
21年度決算と比べての効果額(千円)	【記載不要】	効果額説明(算出根拠)、特殊要因	【政策的事業のため記載不要】

6 前期4年間の取組評価(総括)

上位の施策への結びつき	上位施策の目的	市民、市内滞在者、事業者の生活・事業に必要な基盤が整う。	施策の成果指標又はムトス指標	居住基盤の満足度
この事務事業は施策の目的達成にどのように貢献しましたか	4年間の振り返り	「第5次飯田市下水道整備基本計画」を策定し、計画に基づき下水道未普及地域の整備を行い、公共下水の普及を図った。		
	後期に向けた課題	先行き不透明な経済状況の中、より経済的・効率的に「第5次飯田市下水道整備基本計画」に基づき、平成25年度皆水洗化に向け管渠の整備を行うか。		
この事務事業の成果を向上させるためにどのような工夫をしてみましたか	4年間の振り返り	残事業調査を行い、平成21年6月に「第5次飯田市下水道基本計画」を策定し、計画的に事業を実施した。		
	後期に向けた課題	より効率的な手法の選択をおこない、早期に事業を完了させる。		
コストを削減するためにどのような工夫をしてみましたか	4年間の振り返り	残事業の精査を行い「第5次飯田市下水道基本計画」を策定し事業費の削減をはかった。 また、事業実施にあたり再生材の利用、小口径マンホールの採用、マンホール蓋の直接調達等により、コスト削減に努めた。		
	後期に向けた課題	「第5次飯田市下水道基本計画」に沿った計画路線の事業実施にあたり、新技術、指針の改定等を注視し、より効率的・経済的な工事方法、資材等の採用をする。		
受益者負担の程度、市が関与する程度は適切でしたか	4年間の振り返り	下水道施設は市が設置する施設である。 受益者は下水道排水区域内の市民であり、下水道受益者負担金は都市計画法の「負担の公平」の原理に基づき、認められているものであり適切である。下水道使用料については「汚水にかかる経費は受益を受ける使用者が負担すべきもの」とされ、平成22年に料金改定をおこなった。		
	後期に向けた課題	人口減少、節水型機器の普及等により使用量の減少が予想される、また、平成27年度に下水道事業債の返済がピークとなる、これらを勘案し、平成25年度の次期料金改定における、受益者負担のありかた。		
多様な主体の役割の発揮状況 ①その主体は誰で、どのような役割を果たしましたか。 ②その主体が役割を發揮するために、行政はどのような働きかけをしてみましたか、又は、配慮してきましたか	4年間の振り返り	<ul style="list-style-type: none"> ・地元まちづくり委員会に、工事等に係る地元調整をおこなって頂いた。 ・事前にまちづくり委員会と調整を行い、説明会等を開催。 		
	後期に向けた課題	<ul style="list-style-type: none"> ・工法、施工等に関する課題が多い路線があり、工事実施前の計画段階にて、地元まちづくり委員会との調整を十分に行いスムーズな事業実施をはかる。 		
全体を通じて	4年間の振り返り	全体事業量・全体事業費の見直しにより「第5次飯田市下水道基本計画」を策定し、平成25年度皆水洗化に向け計画的な事業実施を行った。		
	後期に向けた課題	第5次飯田市下水道整備計画を、より効率的・経済的に進め平成25年度皆水洗化を達成する。		

7 「対象」「意図」「結果」の関係の確認

事務事業を統合・分割する必要はありますか	ない	対象や意図を修正する必要がありますか	ない	成果指標や指標値を修正する必要がありますか	ない
----------------------	----	--------------------	----	-----------------------	----

8 総合評価・次年度の事業の方向性改善の計画

<input type="checkbox"/> 完了	<input type="checkbox"/> 拡大	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 別事業に統合	<input type="checkbox"/> 休止廃止	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 目的見直し	<input type="checkbox"/> 事業のやり方改善
-----------------------------	-----------------------------	-----------------------------	---------------------------------	-------------------------------	--	--------------------------------	-----------------------------------